

## 第2章．ボランティア活動に対する国民の意識と行動

本章では、ボランティア活動に対して国民がどのような意識を持っているのか、あるいは実際にどのような活動を行ったことがあるのか、ということについて、既存のアンケート調査<sup>2</sup>から明らかにし、現状と課題を把握する。

まず初めに、ボランティア活動に関する既存調査をレビューし、国民の意識と行動についての基本情報を得る。ここで意思決定プロセスに関する枠組み（AIDMAの法則）を導入して課題を整理し、それを踏まえ新たにアンケート調査を実施する。そして本章の最後で、その結果を基にプロモーションの課題とポイントをまとめる。

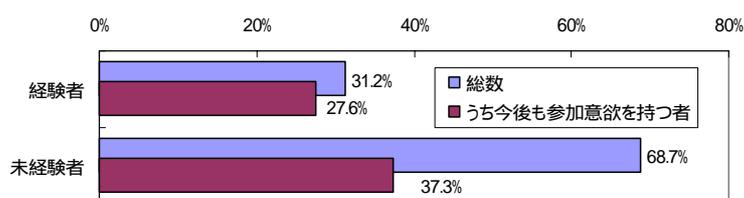
### 2 1．既存調査に見る国民の意識と行動

#### 2 1 1．ボランティア活動に対する意識

##### (1) ボランティア活動の経験と参加意向

- ・ ボランティア活動の経験者は3人に1人の割合（31.2%）である。
- ・ ボランティア活動への参加意欲を持つ人は3人に2人の割合（65.0%）である。特に、活動経験者はその後も参加意欲を持っている割合が高い。

図表 2-1 ボランティア経験の有無と今後の参加意向



(注) 経験者は「現在している」と「過去にしたことがある」の合計

今後も参加意欲を持つ者は「是非参加してみたい」と「機会があれば参加してみたい」の合計

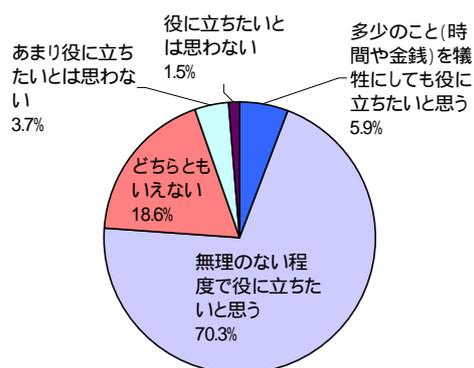
出所：平成12年度国民生活選好度調査

<sup>2</sup> ここでは、平成12年度国民生活選好度調査、及び平成13年度社会生活基本調査の結果を利用した。各調査の概要については、巻末の参考資料（P.145）に掲載した。

## (2) 社会貢献に対する意識

- 社会貢献意識については、4人に3人(76.2%)が「社会の役に立ちたい」と考えている。中でも「無理のない程度で役に立ちたいと思う」人が約7割と圧倒的に多い。この意識がボランティア活動への参加意欲に結びついていると考えられる。

図表 2-2 社会への貢献意識



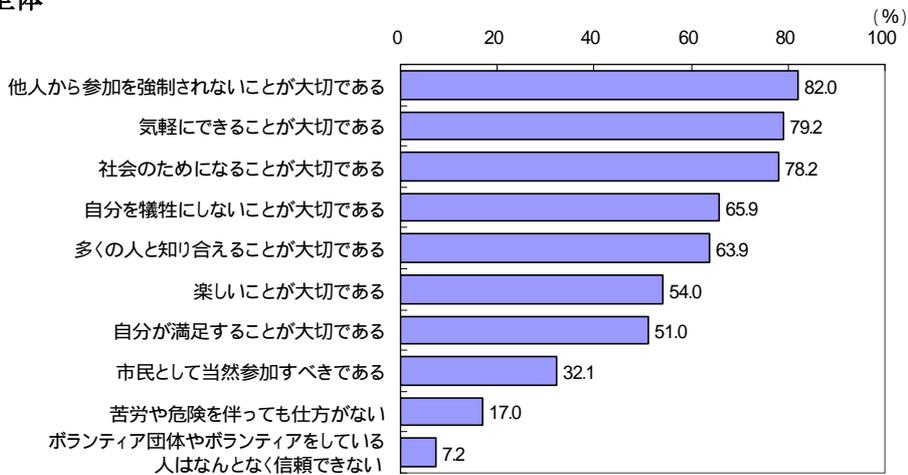
出所：平成12年度国民生活選好度調査

### (3) ボランティア活動に関する考え方

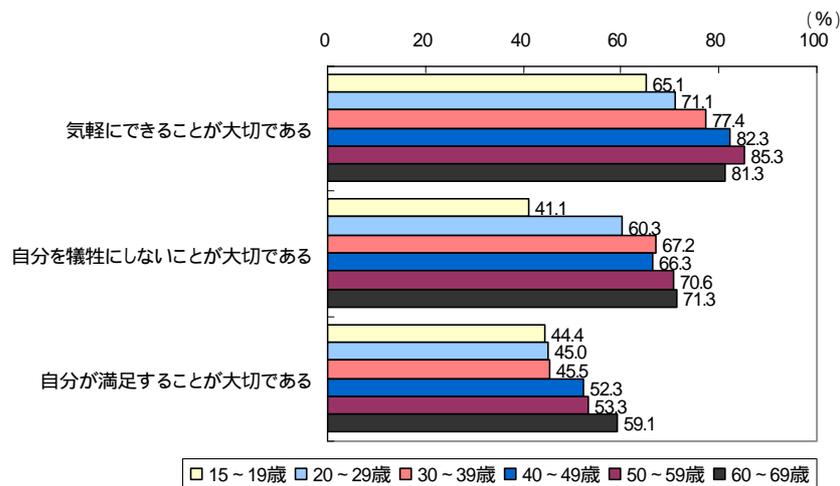
- ボランティア活動に関して、「参加を強制されないこと」が大切と考える人が 8 割を越える。その他「気軽にできること」、「社会のためになること」が大切と考える人も多い。他方、「楽しいこと」、「自分が満足すること」が大切と考える人は 5 割程度にとどまる。
- ボランティア活動に関する考え方を世代別に見ると、「気軽にできることが大切」、「自分を犠牲にしないことが大切」、「自分が満足することが大切」と考える人の割合が若い世代ほど低くなっている。

図表 2-3 ボランティア活動に関する考え方

#### a) 全体



#### b) 世代別



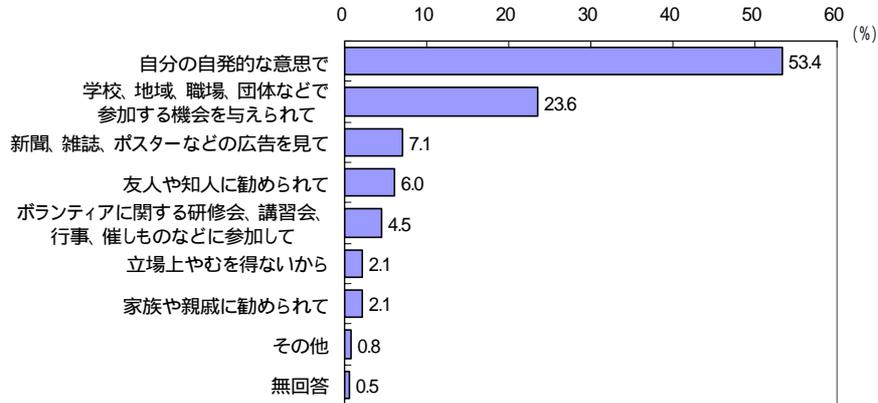
(注) 「全くそう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合の合計。

出所：平成 12 年度国民生活選好度調査

#### (4) 活動を始めるきっかけ

- 参加意欲を持つ人のきっかけは、「自発的な意思で」が5割以上を占めている。

図表 2-4 活動に参加したいと思う直接的なきっかけ

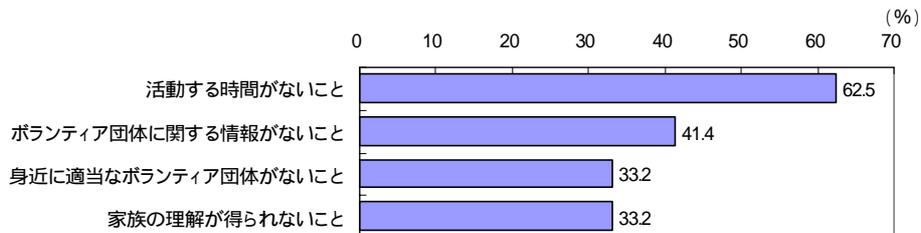


(注) 回答者は、ボランティア活動に「是非参加してみたい」、「機会があれば参加してみたい」人。  
出所：平成12年度国民生活選好度調査

#### (5) ボランティア活動の制約要因

- 活動の制約となることは、時間や情報の不足であるとする人が多い。

図表 2-5 ボランティア活動の制約要因

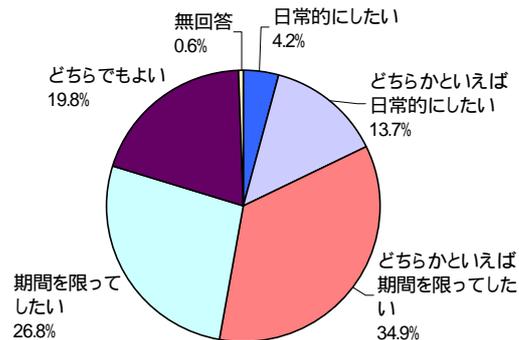


(注) 「妨げとなる」と回答した人の割合。  
出所：平成12年度国民生活選好度調査

## 2 1 2 . 希望する活動期間と範囲

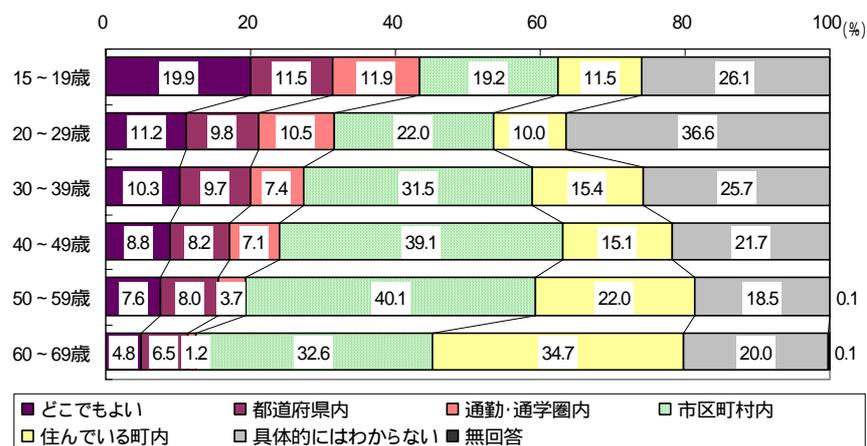
- ・ 参加意欲を持つ人のうち、「期間を限って」の活動を希望する人は6割を超える。
- ・ 年齢が高くなるほど、自分が住んでいる身近な地域でボランティア活動を行いたいと考える人が多くなる。

図表 2-6 希望するボランティア活動期間



(注) 回答者は、ボランティア活動に「是非参加してみたい」、「機会があれば参加してみたい」人。  
出所：平成12年度国民生活選好度調査

図表 2-7 希望するボランティア活動範囲



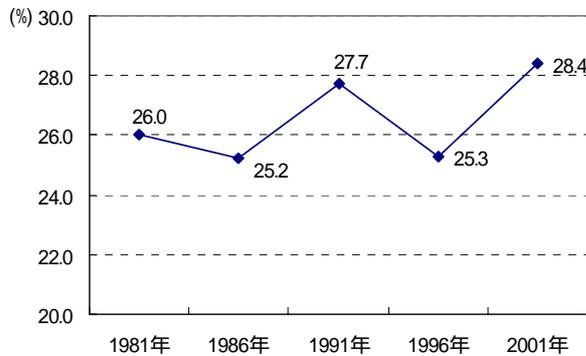
(注) 回答者は、ボランティア活動に「是非参加してみたい」、「機会があれば参加してみたい」人。  
出所：平成12年度国民生活選好度調査

## 2 1 3 . ボランティア活動の実施状況

### ( 1 ) ボランティア行動者率

- ・ ボランティア行動者率の経年変化を見ると、過去 **20** 年間上下動はあるものの、概ね増加傾向にあるといえる。
- ・ 都道府県別では、概ね地方圏の県で高く、大阪府や東京都といった大都市圏の都府県での行動者率は比較的低い。

図表 2-8 ボランティア行動者率の経年変化



出所：平成 13 年度社会生活基本調査

図表 2-9 都道府県別ボランティア行動者率の上下位 10 位 (2001 年)

上位10都道府県		下位10都道府県	
山梨県	39.1	大阪府	21.6
滋賀県	39.1	東京都	22.3
鹿児島県	38.8	神奈川県	23.3
岐阜県	37.5	千葉県	25.2
福井県	36.6	沖縄県	25.6
島根県	36.6	青森県	25.8
長野県	36.3	埼玉県	26.6
佐賀県	36.3	愛知県	26.6
石川県	36.0	新潟県	26.9
鳥取県	35.6	京都府	27.3

出所：平成 13 年度社会生活基本調査

### ( 2 ) 年齢別の行動者率と活動内容

- ・ 行動者率を年齢で比較すると、「**35～44 歳**」が **37.3%**と最も高く、**34 歳以下**では **21%**程度、**45～74 歳**では **30%**程度である。これは、「**35～44 歳**」では学校へ通う年齢の子供を有している者が増加するためと考えられ、活動内容を見ても「子供を対象とした活動」、「安全な生活のための活動」がこの年齢層で大きく増加している。

図表 2-10 年齢別の行動者率とボランティア活動の内容

	総数	健康や医療サービスに関係した活動	高齢者を対象とした活動	障害者を対象とした活動	子供を対象とした活動	スポーツ・文化・芸術に関係した活動	まちづくりのための活動	安全な生活のための活動	自然や環境を守るための活動	災害に関係した活動	その他
総数	28.4	4.8	4.9	2.1	5.4	3.2	13.7	5.6	7.5	1.4	3.2
15～24歳	21.7	6.3	4.8	3.4	4.1	3.2	5.3	1.8	4.5	0.8	2.7
25～34歳	21.4	5.9	1.6	1.2	4.1	2.4	7.4	3.9	5.1	1.1	2.3
35～44歳	37.3	6.2	3.0	1.9	14.7	4.5	17.1	10.2	10.1	1.7	3.6
45～54歳	32.6	4.5	4.9	2.3	5.7	3.9	17.3	7.2	9.2	1.7	3.9
55～64歳	30.7	3.8	7.2	2.4	3.1	3.1	17.3	6.1	8.7	1.8	3.8
65～74歳	31.6	3.2	8.6	2.4	2.8	2.7	18.9	5.6	9.0	1.5	3.8
75歳以上	21.0	2.2	5.7	0.8	1.5	1.3	13.2	2.6	4.5	0.6	2.0

出所：平成 13 年度社会生活基本調査

### (3) 仕事と行動者率・活動内容

- ・ 有業者と無業者を比較すると、有業者（29.2%）のほうが無業者（27.0%）よりわずかではあるが行動者率が高い。
- ・ 有業者・無業者とも家事従事者の行動者率が特に高い。活動内容では「まちづくりのための活動」、「自然や環境を守るための活動」での行動者率が特に高くなっている。一方、学生の行動者率は比較的低い状況にある。
- ・ 有業者の片道通勤時間との関係を見ると、「自宅」勤務者の行動者率が最も高い。通勤時間がなく比較的時間に余裕があることのほか、「まちづくりのための活動」の行動者率が特に高いことから地域との関わりの深さが大きいと考えられる。
- ・ 通勤時間が長くなるほど行動者率は低下し、「2 時間以上」では 20.4%となる。活動内容をみると、「まちづくりのための活動」、「健康や医療サービスに関係した活動」などが、他の属性と比較しても低い。これらの活動は、一回の活動に一定の時間が要するものと考えられ、片道 2 時間以上の通勤はボランティア活動を行うにあたって大きな時間的制約になると考えられる。

図表 2-11 有業者・無業者と行動者率、ボランティア活動の内容

	総 数	健康や医療サービスに関係した活動	高齢者を対象とした活動	障害者を対象とした活動	子供を対象とした活動	スポーツ・文化・芸術に関係した活動	まちづくりのための活動	安全な生活のための活動	自然や環境を守るための活動	災害に関係した活動	その他
総 数	28.4	4.8	4.9	2.1	5.4	3.2	13.7	5.6	7.5	1.4	3.2
有 業 者	29.2	5.5	4.1	1.9	5.7	3.6	13.9	6.4	7.8	1.5	3.3
主 に 仕 事	27.7	5.5	3.3	1.7	4.9	3.7	13.3	6.4	7.2	1.4	3.2
家事などのかたわらに仕事	37.4	5.0	7.7	2.8	9.5	2.9	19.0	7.4	11.3	2.1	4.0
通学のかたわらに仕事	25.9	8.8	5.6	4.8	6.1	5.3	3.7	1.8	3.8	0.9	3.8
無 業 者	27.0	3.6	6.3	2.4	4.9	2.3	13.2	4.0	7.0	1.2	3.1
家 事	31.1	3.6	7.0	2.2	6.6	1.9	16.0	5.0	8.2	1.6	3.3
通 学	25.0	5.9	6.4	4.6	5.1	3.5	7.4	2.0	6.2	1.0	3.0
そ の 他	21.0	2.2	5.2	1.5	1.9	2.1	12.2	3.7	5.3	0.6	2.7

出所：平成 13 年度社会生活基本調査

図表 2-12 片道通勤時間と行動者率、ボランティア活動の内容

	総 数	健康や医療サービスに関係した活動	高齢者を対象とした活動	障害者を対象とした活動	子供を対象とした活動	スポーツ・文化・芸術に関係した活動	まちづくりのための活動	安全な生活のための活動	自然や環境を守るための活動	災害に関係した活動	その他
総 数	28.4	4.8	4.9	2.1	5.4	3.2	13.7	5.6	7.5	1.4	3.2
自 宅	36.4	4.7	7.3	2.3	6.7	4.0	20.1	8.8	10.7	2.4	4.4
30 分 未 満	30.6	6.0	4.1	2.0	6.3	3.6	14.8	7.0	8.2	1.4	3.1
30 分 ~ 1 時 間 未 満	24.3	5.1	3.0	1.7	4.2	3.4	10.0	4.6	6.1	1.1	3.1
1 時 間 ~ 1 時 間 30 分 未 満	23.5	5.1	2.2	1.5	4.5	3.6	9.2	4.2	5.2	1.4	3.5
1 時 間 30 分 ~ 2 時 間 未 満	23.3	4.8	1.7	1.2	3.1	3.6	10.3	3.6	5.0	1.0	2.7
2 時 間 以 上	20.4	2.9	2.3	2.0	5.1	2.7	8.4	3.7	7.2	1.2	3.7

出所：平成 13 年度社会生活基本調査